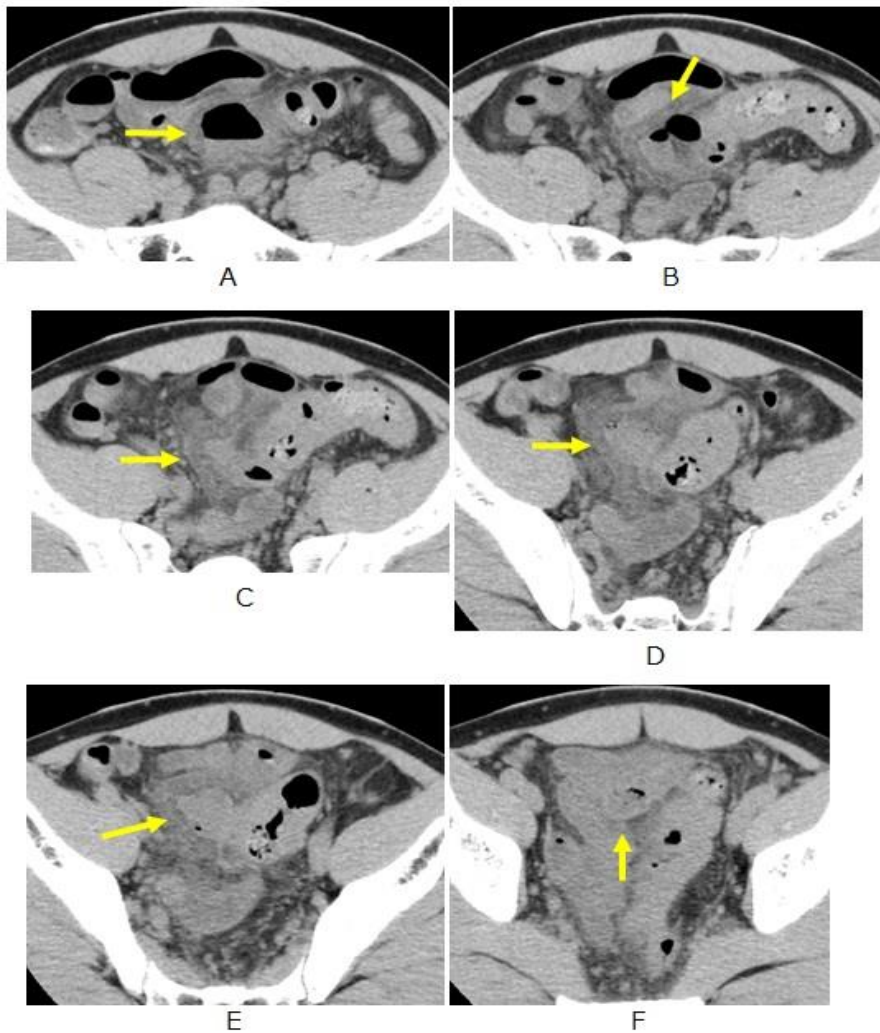


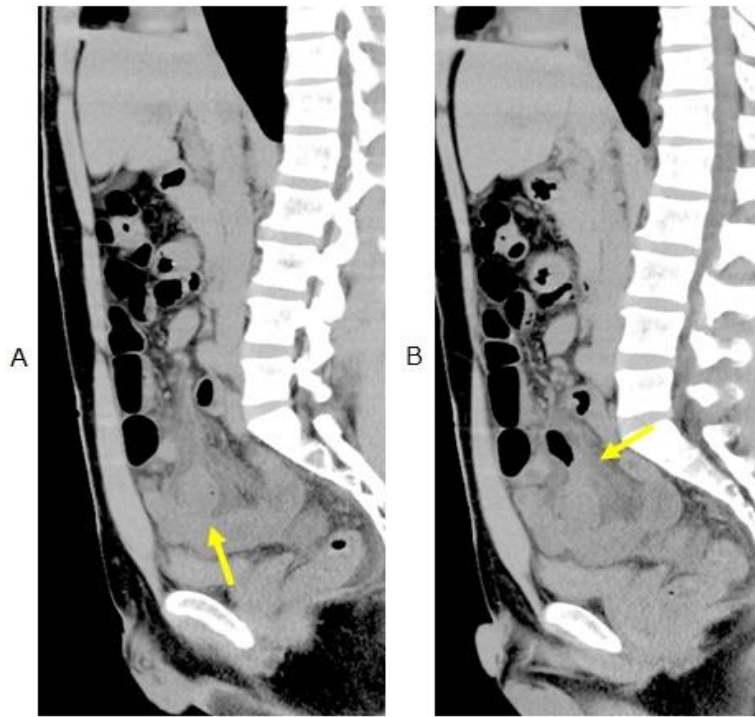
A Case of the 10 days

Case 317

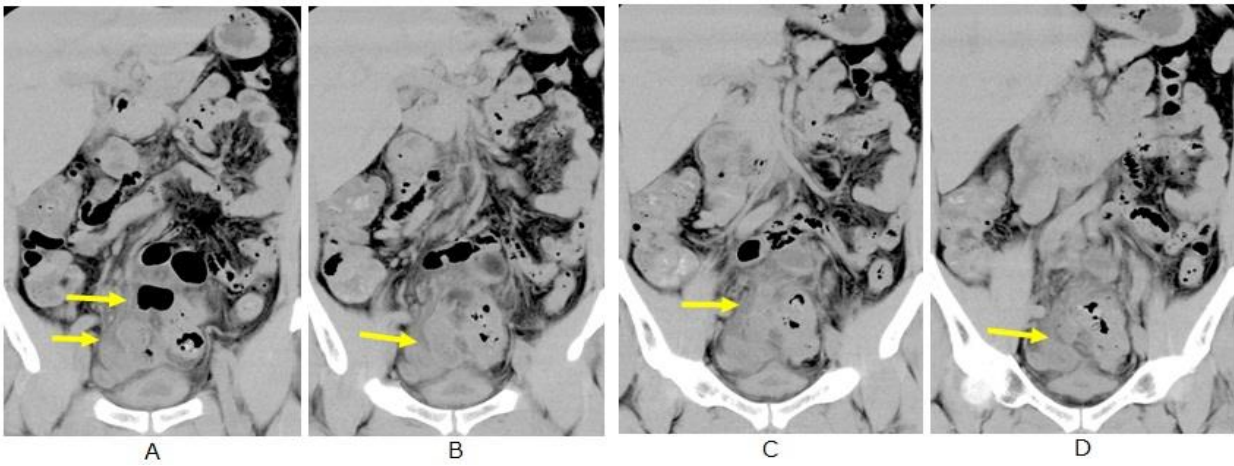
S状結腸穿孔



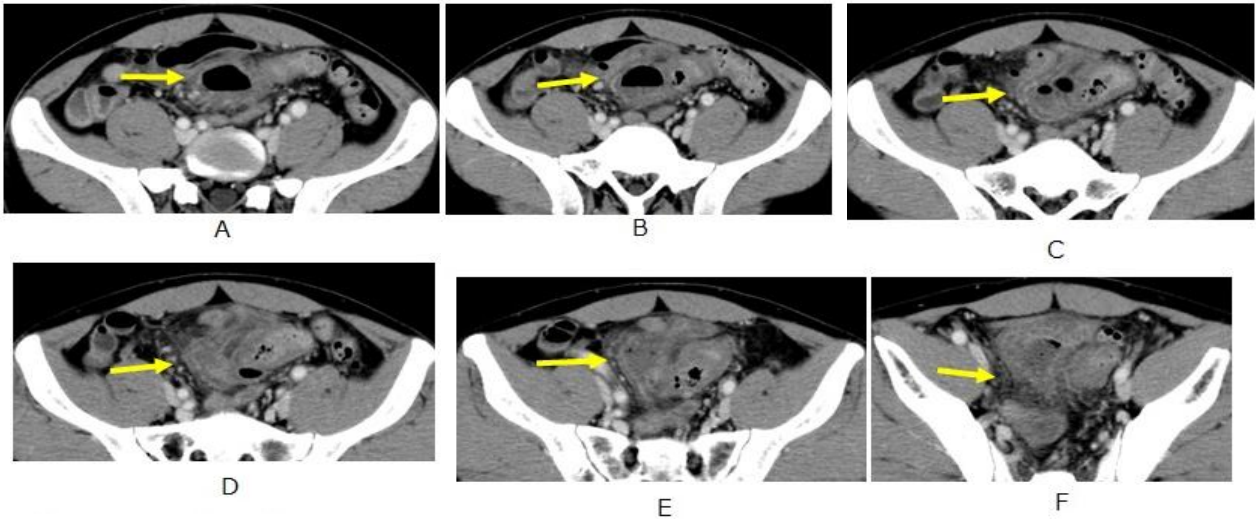
S状結腸周囲にガスと液の貯留する病変が認められる。
尾側方向に進展している。腫大した小腸が病変を覆っている



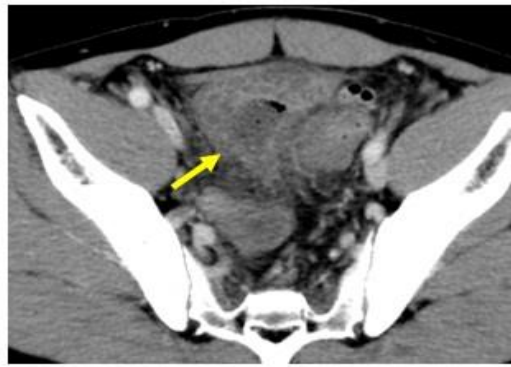
S状結腸間膜に浸潤像が認められる。
その上部に液とガスの混在する病変が認められる。



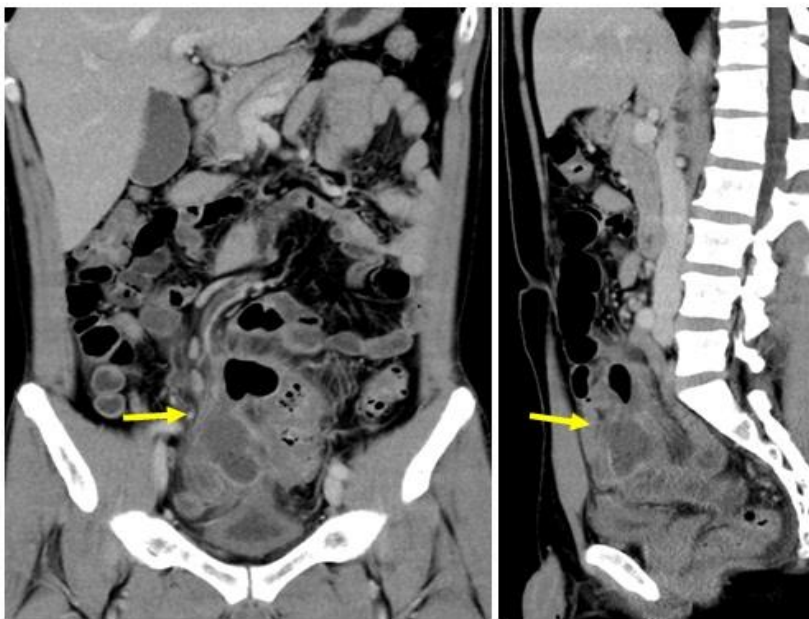
S状結腸間膜にdirty fat signが認められる。
ガスが間膜内に認められる。



造影CTでガスと液の混在する病変が認められる。
S状結腸を取り巻く間膜に病変が存在する



A



B

C

S状結腸を沿って液とガスの混在病変が認められる。
周囲間膜にdirty fat signが認められる。

S状結腸 直腸の一部 (Ra) は **腹腔内に存在**

腹腔内

S状結腸部: 下行結腸から仙骨岬角まで

直腸S状部: rectosigmoid,RS

: 岬角の高さより第2仙骨下縁の高さまで

上部直腸: rectum above the peritoneal reflection,Ra

: 第2仙骨下縁の高さから腹膜反転部まで

腹腔外

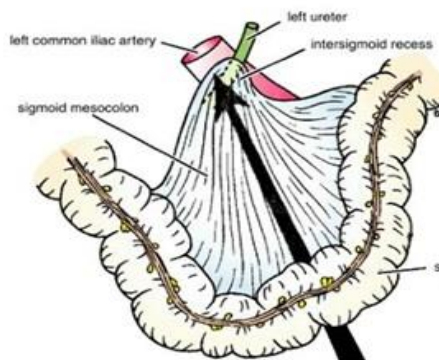
下部直腸: rectum below the peritoneal reflection,Rb

: 腹膜反転部から恥骨直腸筋附着部上縁まで



Intersigmoid Recess

The intersigmoid recess is situated at the apex of the inverted, V-shaped root of the sigmoid mesocolon; its mouth opens downward.



the recess related to the sigmoid mesocolon

S状結腸間膜は逆V字型

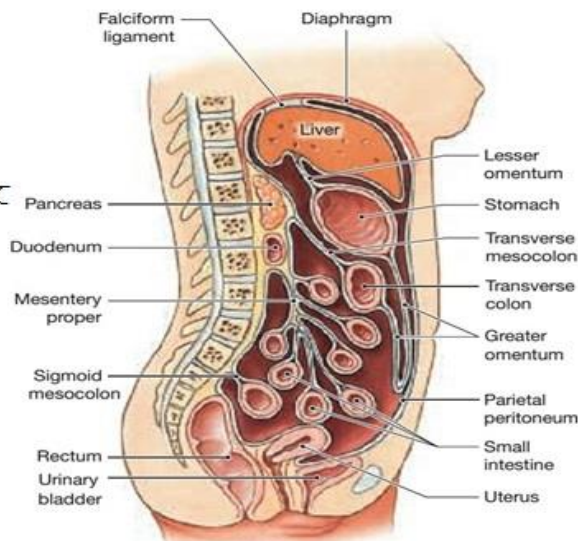
頂部は左総腸骨動脈分岐部: 内外腸骨動脈分岐部に相当

近接する尿管は後腹膜

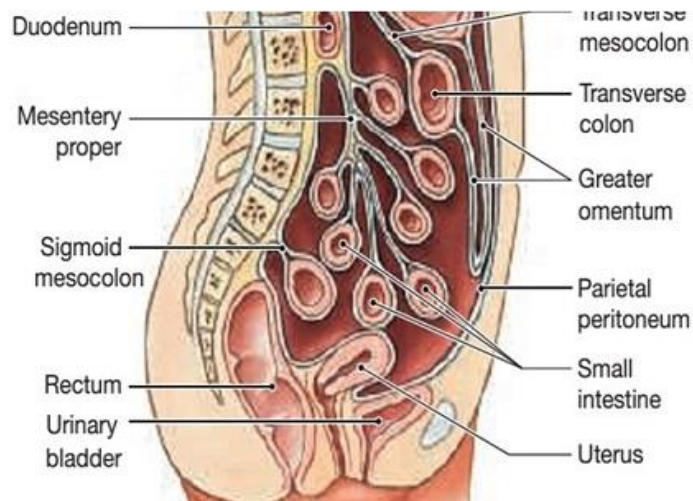
IMAのS状結腸動脈分枝はこの間膜を通じて分枝

S状結腸の大部分は腹腔に面しているが一部間膜の折り畳み部が存在

折り畳み部に穿孔すると間膜の中から頂部を通じて後腹膜腔へ至る

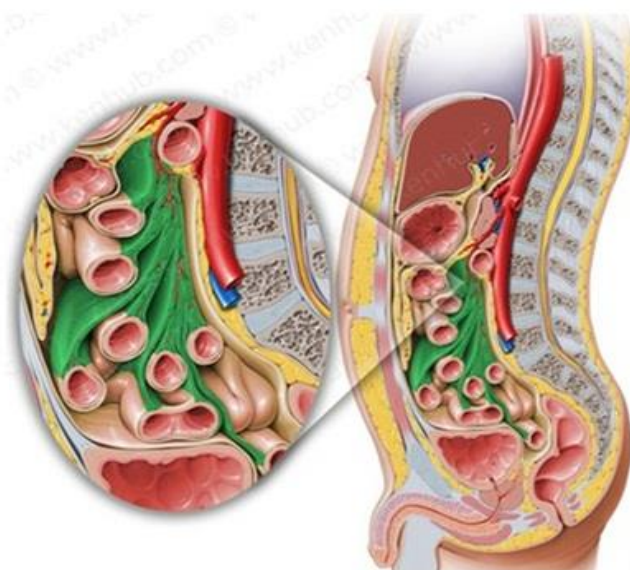


Mesenteries of the abdominopelvic cavity, as seen in a diagrammatic sagittal section.



S状結腸の大部分は腸間膜に覆われて腹腔に面している。
 注意点として腹膜＝漿膜でS状結腸の大部分は漿膜を有する。
 折り畳み部には漿膜は存在しない。

漿膜側に穿孔するとfree air は、腹腔に移行する



S状結腸、小腸でも折り畳み部に穿孔すると間膜内には
 free air が移行し、上向すると上腸間膜起始部或いは
 大動脈周囲の後腹膜腔に移行する

S状結腸穿孔

- 漿膜側の穿孔 腹腔内へfree air
- 腸間膜側への穿孔 間膜内にfree air, dirty fat signを伴う
- 腸間膜への穿孔（血管にそって） 後腹膜腔へfree air
腸間膜の穿通が生じると 腹腔内へfree air

English page

2023.11.24